

市政を問う

子どもたちに誇ることができる 素晴らしい朝倉市を

質問者11人、傍聴者118人

浅尾 静二 議員

質問項目

1 協働のまちづくりについて



Q 平成22年度から地区コミュニティ協議会がスタートした。地域の特性をつく

り、課題を自ら解決していくことがコミュニティの役割だが、それぞれの地域づくりを進めることは、朝倉市が活性化していくために大事なことである。ふるさと課を中心多くの職員がコミュニティ協議会等に参加して情報収集するなど、

地域の中にもつと入っていく必要があると考えるが。

A 住民と行政がもつとコミュニケーションをとる必要があると考える。

Q ボランティア団体やNPO団体を育てることは、協働のまちづくりの重要なテーマだと思う。提案公募型協働事業に11団体応募があり、4団体採択され7団体は不採択だったが、そういう熱意を持った団体に対してその後のようなフォローをしているのか。

A いずれの団体も、地域課題を解決するために熱意をもつて企画提案されたものだと受け止めている。協働のまちづくりを進める点からも、提案された事業は可能な範囲で支援していきたい。

Q ボランティア団体など市民活動団体が、情報交換や意見交換をすることができ活動拠点となる場所を開放しているのか。

A 朝倉支所の3階にふろさと課分室として設置して

いるが、夜間の使用などに制限があり、活発に活用できていない。情報交換、調整役などのボランティア活動を支援するセンターは必要だと考えている。



住民と行政の対話をもっと深めよう

Q 協働のまちづくりは進んでいるか

A 十分に意見交換しながら活動を定着させる

Q 国保運営の赤字解消の考えについて

A 解消方法は2つ。時期が来たら決断する

田中 保光 議員

質問項目

- 1 国民健康保険の運営について
- 2 水産資源の保護について



Q 市の国民健康保険運営

については、平成24年度決算で5億6500万円の累積赤字決算となっている。翌年度の歳入から不足分を繰上充用で穴埋めしている。このことを市はどのように受け止めているのか。

A 平成20年度以降、財政

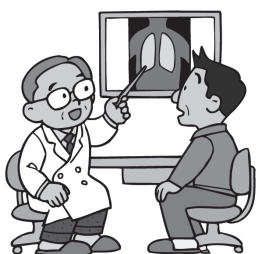
上の対応として繰上充用による決算処理が続いている。この制度は非常手段であると認識している。

Q 国民健康保険は、農林業者や商業者・非正規労働者と会社等の退職者で、被用者保険のない人が加入しているが、加入者は年々減少し、高齢化が進み保険料は減収し、反面医療費は年々高騰し赤字である。このことをどう受け止めているのか。

A 歳入不足の要因として加入者の年齢が高くなっている。失業者非正規労働者の加入が多いが、加入者の減少で保険料が減収し、又国民健康保険法の改正で、定率国庫負担金が引き下げられたことや、高騰する医療費が大きな要因と分析している。

Q この赤字は市で解決すべきであるが、他市も厳しい状況であり、一般会計からの法定外繰入れも多くの市が実施している。この赤字解消をどのように考えているのか。

A 医療費の削減の努力は当然やっていかなければならないが、赤字解消には2つの方法しかない。一般会計からの法定外繰入れと保険料の値上げである。いつまでもこの問題を置いておくというわけにはいかない。しかるべき時期が来たら決断する。



適正な治療に努めましょう

稲富 一實 議員

質問項目

- 1 農政施策について
- 2 朝倉市国民健康保険の運営について
- 3 安心安全なまちづくりについて



Q 市の農業振興施策の効果や進展が非常に見えづらい。山間部や中山間地では荒廃化が進み、耕作放棄地が増えている。現在の耕作放棄地面積はどれくらいか。

A 現在は88haの荒廃農地がある。農業委員会等の指導や事業の活用で減少傾向にある。樹園地については明確な数値は把握できていない。

Q 農業の現状を鑑みると、主に山間地や中山間地は増加傾向にあると思う。何らかの策を講ずるべきでは。

A 荒廃園防止は大変重要なことであり、中山間地域等直接支払や農地の流動化等対策を行っているが、より有効な手立てが見いだせていない。

Q 荒廃園に広葉樹林等を植栽するといった切り込んだ施策がとれないのか。

A パイロット事業等で造成した地域は農振除外することが非常に厳しい。

Q 市の実態を県や国に上げていくシステムを構築していただきたい。山林化が可能であれば、広葉樹林帯による観光と連携した農業を進めることができ、交流人口が増えるであろう。また、6次産業を構築する上で、^{はせ}櫛や椿の植栽が有効ではないか。



今、抜本的な施策を

Q 市の荒廃園対策は「待ったなし」の状態だが

A 市の実態を踏まえ、県や国に働きかける

A 山林化には農振除外の制約が大きい。県には、農地に果樹以外に何が植栽できるのかを相談している。櫛や椿は農振地域でも栽培可能である。また、農水省にも現状に応じて農振除外を行うことができないかという働きかけを行っている。たとえ山林化したとしても、人の手が入らないと荒廃していくことには変わりはないので、対策は必要である。

Q 教育環境を考え、木造校舎をつくらないか

A 秋月中学校の例がある

まで「まだ、何も決まってい
ません。」だった。責任
もって話されたのは、協議
会の地元の方々だ。

富田 栄一 議員

質問項目

- 1 活性化について
- 2 教育行政について
- 3 観光政策について



Q 教育委員会が市長へ渡

された「意見書」は、1回
として地元での会議、また
説明会もしないまま提出さ
れている。朝倉市の教育政
策の立て方はこれでいいの
か。地元の協議会が主催し
た説明会に、ゲストとして
出席した教育委員会は最後

事項であって、地元と十分
協議しながらやっていき
たい。

「あえて子ども達のために
どうせないかんか、もう一
遍考えようや。」やつとま
とめて教育委員長へ報告書
を提出された。地元に打ち
返しが無いまま。教育政
策は、3日ぐらいでできる
ものではないと考えるが。

A おかしいということがあ
るならば、この場でも教
育委員会に十分説明を求め
るべきだ。意見書について
は教育委員会が責任を持っ
て市長のところへ提出され
たものだと考える。私の方
から、取り下げてくれと言
う話は、する気はない。

Q 教育長は、意見書につ
いてはどう考えているのか。

A 意見書は、1つの提案

Q 緑に包まれている朝倉
市はすばらしい。調べてみ
たら木造校舎にその良さが
ある。「木」の新しい価値
創造を、子ども達が生み出
した。3つのダムの水源地
朝倉のランドマークとして
丸太ん棒がいつばいあるよ
うな木造校舎をつくってみ
ないか。

A 秋月中の例がある。地
元と十分相談していく。



子どもたちが教えてくれた

Q 視覚障がい者の方々に
とつての自立、自己実現の
最大の障壁は、移動と読み
書きである。自立に向けて
の支援、特に中途失明の方
や介護をしてくれる家族が
いない方などのための福祉
サービスの現状は。

A 移動に関するサービス



柴山 恭子 議員

質問項目

- 1 安心安全のまちづくり
- 2 小学校グランド整備

として、同行援護と移動支
援がある。同行援護は、移
動に著しく困難を有する視
覚障がい者に対して、社会
生活上必要不可欠な外出や
地域行事等の余暇活動のた
めの外出に同行し、外出先
での代筆や代読などの情報
支援、食事等の身体介護等
を行うもので、現在同行援
護の申請者は31名、事業所
は2か所あり、ガイドヘル
パーが13名いらつしやる。

Q 同行援護が必要な時、
必ず利用できるのか。また、
緊急時の対応はどうか。

A 行事が集中しなければ
時間的に余裕があり、希望
に応じることができ。時
間の追加は柔軟に対応する
が、緊急時でも申請は行っ
ていただきたい。

Q 視覚障がい者にとって、
同行援護の手続きはとも

複雑で困難だと聞か、簡
素化はできないのか。

A 手続きを詳細に確認し、
簡素化できる部分は行いた
い。

Q 雨降りの歩道は怖いの
で端を歩いたり、道にはみ
出した枝や草に気づかず、
とても困るなどと聞く。バ
リアフリーの地域づくり、
住みよい町づくりの成功の
道は。

A 住民と行政との溝を埋
めて、なくしていく方法は、
「できない理由」を考える
ことをなくすことにある。

Q 視覚障がい者の福祉サービスの取り組みは

A 障がいを持つ方の声や要望を聞く



目の不自由な人のSOS